

ぽかぽか

園だより

12月

PEARL KINDER GARTEN

PEARL PRIMARY CLUB

PEARL NURSERY SCHOOL

BABY PEARL NURSERY

以前のことで、どこかの保育雑誌に載せたことですが、幼児教育、保育は、子どもが世界を愛するようになることへの援助なのだという考えが、もう少し丁寧に述べられるようになったと思いますので述べてみます。

大きく二つがありますが、中味としてはつながっています。まったく理想論というつもりはなく、単に園でやっていることを素直に見れば、そういうことなのだと思うわけなのです。そして、それが学校教育さらにもっと広い成長の基盤となることも、これは一種の幼児教育思想となるのかもしれませんが、私には、もっともな議論だと考えるようになりました。これを元に、幼児教育、保育の構想を組み立て直すかもしれないと思うと、先のことやちよつと見える気もします。幼稚園教育要領の5領域ということ、資質・能力、10の姿、小学校との関連、さらに認知と非認知あるいは思考と情動との関連なども位置づけられるような気がします。何より幼児期の独自性をはっきりとさせていけるように思うのです。

『世界を愛する』ということ。

「世界を愛する」と言うと、大げさな言い方に感じるかもしれません。まして、それが幼児期の教育、保育として、子どもに育てたいことだということ、大それた言い方過ぎると思われることでしょう。でも、言いたいことは簡単で、乳児期から始まって幼児期に身の回りで様々なことに会って、それが好きになっていく。それが育ちの最も基本であり、広い意味での教育としての根幹なのではないかということです。

園に行くと、園庭遊具があり、砂場があり、絵本を読んでもらい、歌を歌ったり、鬼ごっこをしたりする。友達と一緒に大きな山を作りトンネルを掘り、水を流し川をつくる。それが壊れて小さな池ができる。また、泥団子をつくり、ままごとをする。それはそれまでに、ほぼ家にいて、親の元で育ってきたところとはかなり異なり、広いこの世界にあるいろいろなものへの出会いの始まりです。むろん、家でもいろいろな経験をしますが、それはまずは親との親しい関係の成り立ちであり、その安心の下で、少しずつ家の中から外へと視野が広がっていく時期です。それに対して、2歳3歳と園での経験が始まり、さらに友達が生まれ、一緒に運動や造形や組み立てやごっこなどの遊びをしていき、また教員がいて広がりのある遊びへと導いてくれる。

毎日、毎日、園に通い、いろいろな経験ができることが楽しみになる。そこで繰り返し出会うものや人が好きになる。そこで、いろいろなことができるのだと分かる。年上の子どもの様子などを見て、もっとできることは広がる。大人のすることを見て、あれもこれもいつかできるようになるのだろうと楽しみになる。そういうように、この世界を成り立たせている諸々に関わり、深くその可能性を掘り出し、さらにその先がきっと豊かに広がるのだと感じる。多種多様なものがあり人がいることが好きになり、もっと関わっていきたいと感じる。それを「世界を愛するようになること」と表現してみたいのです。これが、

幼児期に育つ最も大切なことではないでしょうか。

『勉強の基礎は幼児期の豊かな遊び』ということ

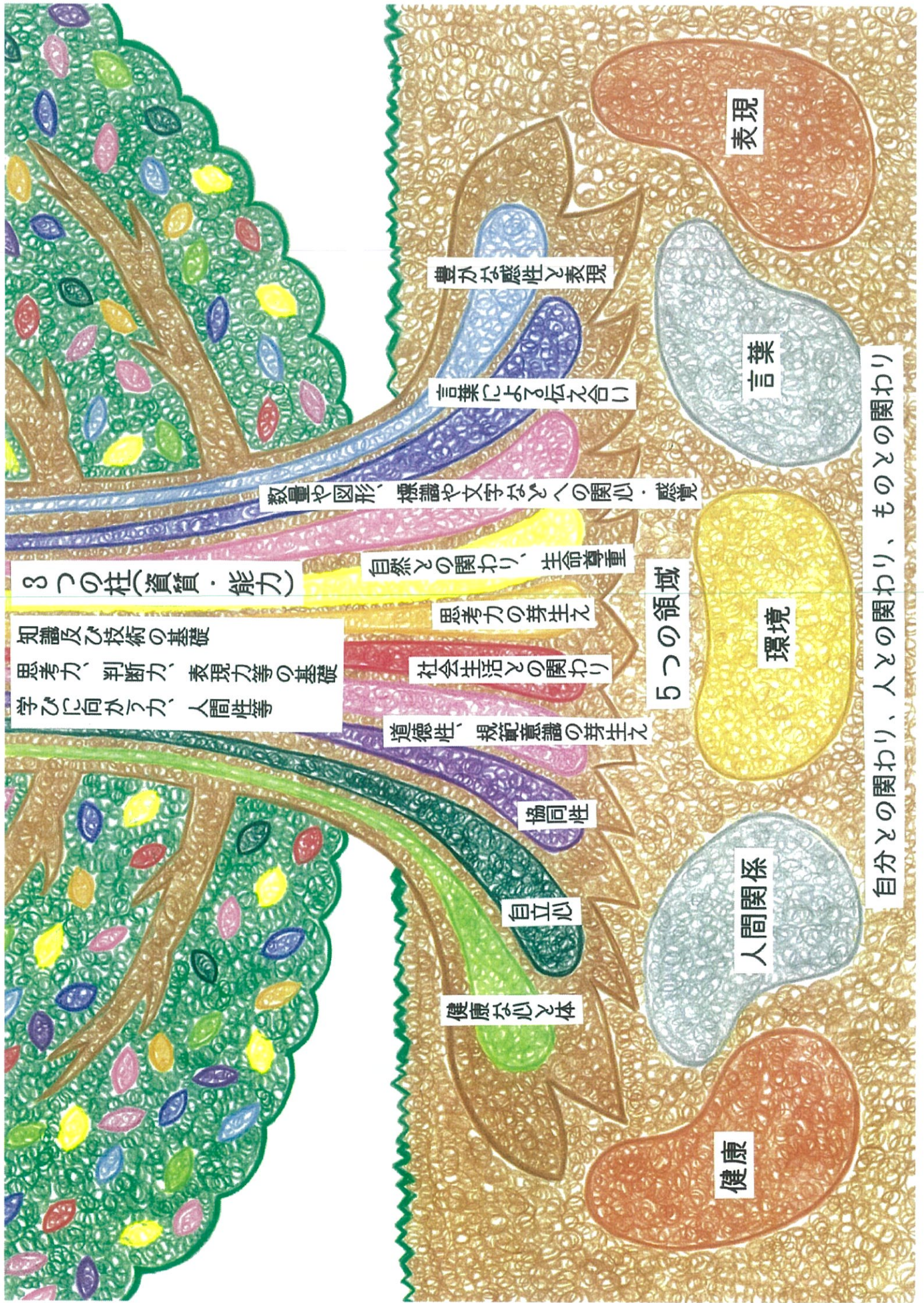
小学校では勉強が始まります。落ちこぼれては困る。いじめとかも嫌だし、学校を好きにもなってほしいと願います。親として幼児期からその準備を始めたいと思うかもしれません。小学校に入ることを考えて、小学校の生活に慣れる必要があります、例えば、一人でトイレに行ける（特に和式トイレなど）、独りで家から学校まで通える（集団登下校もありますが）、朝きちんと起きるなどが必要でしょう。鉛筆を持てるなども練習します。

たくさんの幼児期に大事なことをする時間が確保されるなら、少しの時間で済むことはやっていて大丈夫です。ただ、それらのことをたくさんやっておくと、すごく小学校で有利になるというわけではありません。これらは習慣化してこそ有利になるものなのです。幼稚園の姿と家での姿が違うということもあるでしょう。これは集中と休憩という例えで理解すればいいと思うのです。小学校受験などで家庭での集中モードが続けば、幼稚園では休憩モードになることは当然のようにも思います。

生活の営みの中で切り離せない算数などではありませんが、幼児期に数えることが遊びや生活でいくらかでも機会があり、そこで、実は筆算ではありませんが、算数の基礎を学んでいるものです。所謂、数の概念です。おはじきなどを数えて5個あった、一つ増えれば6個、そこから二つ取れば今度は4個、ということは年長くらいになれば分かりますが、それは既に足し算と引き算の基礎を学んでいることになります。かな文字の読み書きでも大部分の幼児は、かなを1文字ずつなら読めるようになっていきます。絵本役割、その他、文字に出会う機会が多いからです。書く方は筆順が難しいので、練習が必要ですが、自分の名前くらいの練習がしてあれば、後は指先のコントロールを描画や工作や迷路などの遊びで養っておくことが大事ですが、小学校1年の学習できちんと取り組めば、十分間に合うものです。

そもそも、幼児にやっていてほしいこと、また、その時期を過ぎると十分時間を取れない経験が実はそういう小学校の勉強につながることは、意外にたくさんあります。何より友達ができて、一緒に遊ぶこと。鬼ごっこなど体を動かすこと。砂や土や水や落ち葉などに触れて自然物を知ること。積み木などを使って組み立てる工夫ができること。ごっこで人間関係の試みをする事。絵本に親しむこと。遊びを通して、人との付き合い方、体の動かし方、自然や人工のものの仕組みを分かり考えること、言葉を使い、人とやり取りすること、造形や音楽で自分の気持ちを表現することなどを幼児は学んでいます。それこそが人間としての土台作りなのです。その上であって、小学校への準備が意味を持つものです。集中と休憩、この習慣化は小学校への連携において大事な鍵になるものでしょう。

園長 野村 良司



年長クラス 12月

音舞台 2021

12月3日、無事音舞台2021を開催する事が出来ました。保護者の皆様におかれましては、ご理解、ご協力だけでなく、温かい声援までありがとうございました。曲の最後には、大きな拍手と素敵な笑顔に包まれ幕を閉じる事が出来ました。子どもたちにとって、お母様やお父様からの笑顔は何よりも嬉しく、自信に繋がったと思います。さて、年長児はクラス曲と合同曲の2曲をそれぞれ演奏しました。シン・シン・シンですが、ピアノのリズムが美しく形になるまで(に)時間がかかりました。そして、演出にもこの「ありソハーサルの日」まで修正を繰り返しておりました。しかし、さすが女の子！修正してもすぐに吸収し演奏する姿が見られ、頼もしく感じました。そして、余りの舞ではピアノ自体は美しくなかったのですが...集中力が続かないのです。初めは演奏中にも関わらず、話し出してしまったり、遊びだしてしまったりと思いの時間経過してしまいました。そんなこともあり、男の子は集団遊びから初め仲間意識を強化し「少しおうち」気持ちが一つになつていく姿を見る事が出来ました。どちらの演奏も、本番では年長児の魅力を発揮し「ハール幼稚園の年長クラス」から出来る演奏になったと思います。音舞台が終わり、次はUTABUTAに入ります。今日感じた、全員で居る難しさを達成感を忘れずに過ごしていきたいと思っております。



音舞台を終えて

音舞台を終えて、子どもたちと振り返りを行いました。頑張った事を聞いてみると、先生の目を見る事、姿勢を整える事、音の粒を揃える事、周りの音を聞いて揃える事など一人ひとりによって回答は様々でした。さて、「音舞台を終えて」という事で、それぞれの思いを糸会で表現してみました。頑張った事だけでなく、楽しかった事、嬉しかった事などを一枚の画用紙に詰め込みました。ピアノを描く子や舞台を描く子など表現方法も様々で見えて面白かったです。糸会を描きながら、音舞台までの過程を振り返り余韻に浸っている姿が見られました。やはり、どんな事にも振り返りは大切だと感じます。振り返ることで、今までの過程を認める事が出来、中には反省する子もいたり...次に繋げるために大切な時間になったと思っております。今後も振り返りを大切にしながらステップアップ出来るように声をかけ参ります！

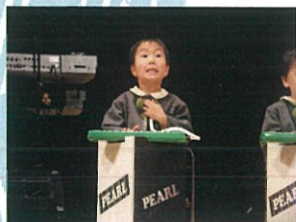
今回の造形あそびは、子どもたちが楽しませたい「車」を作りました！年中クラスでも一度作りましたが、今回はレベルアップしています。なんと、タイヤが動くようになっていたのです。しかし、タイヤを動かすためには、様々な道具や材料を使い、考えて作る事が必要となります。苦戦している姿が見られましたが、最後まで自分で作り出した一生懸命に作っていました！自分で作ったものには愛着も湧きまわすし、構造も知り学びにも繋がります。分からなければ誰かの手を借りることも大切ですが自分でやり抜くことも大切にしていきたいと思っております！完成した車には、一人ひとりこだわって装飾をしていました。ストロベリや重宝をつけたり、ヨーグルトカップを人に見立てたり...ナンバープレートや車の名前まで付けている子も居ました。子どもたちの想像力が毎回驚かされます。考え、こだわり、想像力が出来るような造形あそびを今後も行っていきます。と思います。



車を作ろう



年中クラス 12月号



音舞台2021

音舞台にお越しくださった皆様、ありがとうございます。無事に開催できたこと、嬉しく思います。年中クラスにとって2回目の音舞台。一年前からグンと成長した姿をお見せすることができたのではないのでしょうか。



音舞台に向けて活動する中で、自分のクラスだけでなく、他のクラスの活動を自主的に見学する姿も見られました。直接感想を伝えてくれることもあり、互いに認め、高め合えたのではないかと思います。次はUTABUTAIでずいぶん年中クラスでバリエーションにして、頑張ります😊



千歳飴袋

11月の園だよりでお伝えした千歳飴袋が完成しました♪

パール幼稚園オリジナルの千歳飴が入った世界に一つだけの千歳飴袋。お持ち帰りをすまで、子どもたちは毎日のように「まだお持ち帰りしないの?」と待ちきれない様子でした♡「飴が割れないようにね」と伝えて袋を渡すと、大切に抱きかかえながら持つ子や、嬉しそうに振り回す子まで様々でした(笑)

千歳飴、美味しかったかな?



造形あそび

今回の造形あそびは、丸シールとビニールテープを使って絵を描きました。

カラフルな丸シールとビニールテープに興味津々な子どもたち。担任がお手本でお花を描くと「私もやりたい!」とお花畑を描く子や、夜空をイメージする子、音舞台の様子を描く子など、想像力豊かで素敵なものが出来上がりました!!

友だち同士でも「このシール使っていいよ」と優しさが見られる場面も♡♡

今後も造形あそびを取り入れ、楽しい時間を過ごしていきたいと思います♪



UTABUTAIの衣装について

UTABUTAI 2022の衣装で、年中クラスはパジャマを着用したいと考えております。各御家庭でご用意頂きますようお願い致します。色や不肉などの指定は特にございませんが、全体のバランスを考慮、華美なレース、キャラクターもの等はお控え頂きたく存じます。舞台上はライトが当たる関係上、暑くなりますので、薄手のものをご用意頂ければと思います。

また、子どもたちが自分で着脱できるものをご用意ください。宜しくお願い致します。



年少クラス



とび箱



今年2学期のサーキットはダッシュのみでしか、年少クラスもとび箱を始めました!!
とび箱はいつから?と楽しみにしていた子どもたちも「とびはこえられる?」と目を輝かせていました。とび箱を行う数日前から11月に入ったら行くからと、年中、年長さんのとび箱を眺めている様子を見せられ、踏み四ツのしお手の付き方、開脚、着地等イメージを持ってるようにしとび箱デビューに備えました。

いざとび箱を跳んどみると思うようにいかなかった様子...ロイター板に目安の線があるのですが、そこまで足の届かず上手に踏みきれない、手か、とび箱の手前につかまろう、体重移動がうまくできない、開脚ができません!足かとび箱に当たってしまう等イメージ通りにはいかなかったのです。毎日行うと跳べるようになってきた子が4、5人も少しづつ増えつつあります...。今年、跳ぶことを目指しているわけではないので、基礎をしっかりと身につけられように取り組んで参りたいと思います!!
開脚がスゴいぞと、おふろ上へリに時間があるよ、やってみて下さいね♪

千歳飴袋



七五三に向けて千歳飴袋を作りました!!
千歳飴にはいつまでも健康に長生きしてほしい、という意、味もあり、音の子どもは病気になる...という話もしたので、おそろく話を聞いて貰っている子は、いよいよかぞとすねる
今年の年少クラスの千歳飴袋は「ツバキ」です。子どもたちにツバキの花の写真を見せて、真ん中と左右にツバキを描いて、その上を白のエのぐでぬりました。ツバキを描く際、「ツバキはーい、さーい」という声も聞こえてきたので、お手伝いもしたのですが、少し手伝うと続きは自分で描こうとする姿も見られ成長を感じました♪
保護者の方から文字も自分で描いたのぞきと聞かれたのですが、七五三の字は点線の上をたどって描きました!自分で描いているのかと思われ、うれしはみ出せずに描けた人ぞとすねる♪心を込めて丁寧に作ることでできました!

縄跳び&粘土ペラ



様々な物の使い方も上手になったので、縄跳びと粘土ペラも子どもたちに渡し、使、始めました。クオ元々粘土遊びは好きな様子が見られました。粘土ペラが登場してからは積極的に粘土をあそぶ子が増え、伸び伸びと、型取ったり、楽しんで、同時にたよとてども!使、方をまらかえと大変なので、きらくと約束と使、方を伝えながら開始!園庭あそびがより充実しているくらい!王とんどの子、縄跳びを持って楽しんでます♪最後の練習はとこぞ、難しい、みに、はつて、ぜひご家庭でも練習してみてくださいね♪

information

- ◎少しずつ幼稚園の備品を持ち帰ります!
→リュックやサブバックに入れ持ち帰りますので確認お願、いします
- 3学期に持ってくる備品については12月のINFORMATIONにてお伝えしております!
- ◎再度名前確認をお願、いします
→兄弟、友達からゆずり受けた物、そのままたと誰のかわかりずい場合必ず本人の名前でお願い、いします

